

令和3年度学校評価アンケート集計結果と学校評価について

学校関係者評価を行うにあたり、内部評価（教員・生徒）に対するアンケート調査を行い、分析することで次年度の学校運営の参考にする。

調査方法および分析方法

調査は全校生徒（194人）を対象に、独自のアンケートを作成し、行った。アンケート結果は、個別に集計し統計処理を行った（平成25年度より継続して実施）。

結果）

- ・施設及び学年以外は点数に差が見られず、傾向が読み取りにくい結果となった。学年間の比較では、3項目に有意差が見られ、2年生の平均値が高い傾向が見られた（表1）。この結果は昨年と同様であった。
- ・満足度の年度間比較では、昨年度まで3年連続で平均値が上昇していたが、今年度はやや数字が下がってしまった。コース間では、昨年と同様に普通コースよりスポーツコースの満足度が高い傾向が見られた（表2）
- ・同一学年における満足度の年度間の比較では、現3年生2年生共に多くの項目で昨年度より数値が下がる結果となった（表3、表4）。
- ・CS分析の結果より人間関係はどの区分においても重要かつ満足度が高いという結果となった。また、例年と比較すると授業の重要度が高くなっていること、進路の重要度や満足度に大きなばらつきがあるところが今年度の特徴であった（図1～6）。
- ・自由記述欄、北照高校の良いところを記載内容毎に分類した結果、学校生活、なし、教員、取り組み、部活の順で数が多かった。同じく悪いところは、施設、なし、イメージの順で数が多かった（表8、表9）。
- ・教職員の自己評価は過去最低の水準の平成30年度より回復傾向が見られた。授業を除く4項目で10ポイント近くの数値が上昇した（表7）。

自己評価）

※評価についてはAを最高として、A～Eの5段階評価で行った。

項目	評価	総 評
学校運営	A	満足度の数値はやや低下してしまったものの、HR指導や教科指導を中心に生徒一人ひとりを大切にしていく方針は、生徒から継続した評価を得ていると判断できる数値である。さらに、多様化する生徒のニーズに対応するために、スポーツコースのクラス編成を刷新するための準備を行っていることから昨年度と同様の最高評価とした。
生活指導	A	生徒のアンケートや教職員の自己評価から、生徒間の良好な人間関係や教員が生徒から信頼を得ることができている。昨年度よりは指導案件は増加したものの、生活指導に関しても、世情に合わせて校則の見直しの準備を行っているため、評価は昨年度と同様とした。

進路指導	B	<p>令和3年度の卒業生については令和2年度と同様に大多数の生徒を、担任を中心として、進路指導部とも連携しながら、円滑な進路指導を行うことができた。一方で、進路に対する意欲が著しく低く、ほとんど進路活動を行うことなく卒業を迎えてしまった生徒がいたことも事実である。このような生徒への対応を昨年度からの課題としていたにも関わらず、指導方法の確立はもちろん、有効な対策も取ることができなかつたことは大きな反省点である。来年度は新カリキュラムの導入でキャリア教育により力を入れることができるようになるため、教科・学年・分掌で連携を取りながら力を入れて取り組む必要がある。</p>
教科指導	B	<p>授業規律については良い状況を維持できている。一方で、その結果を、生徒の学ぶ意欲の向上や自発的な学習、主体的な取り組みに繋げることができたとは言えない。有効な手段の確立が今後の課題である。</p>
特別活動 ・ 課外活動 指導	B	<p>新型コロナウイルス感染症への対策のため、計画通りに行事を実施することはできなかったが、感染状況に合わせて延期や計画の変更をすることにより、令和2年度よりは多くの活動を行うことができた。しかし、生徒が十分に満足したとは言えないことから評価はBとした。</p>
総合評価	B	<p>令和2年度に続き、新型コロナウイルス感染症の対策等による影響は大きい一年であった。影響が長引くことにより、在校生の多くが本校の学校生活や学校行事を十分に体験することができていないため、以前との比較が難しいことや、学校に対する愛着などが持ちにくい状況になってしまっている。</p> <p>上記の様な難しい状況下ではあるものの、生徒の満足度や教員の自己評価が低下していることを真摯に受け止め、総合評価は昨年度より1段階下げ、令和4年度への反省材料としたい。</p>